

## 第 1・2 学年 図画工作科

### 1 学年の目標

- (1) 進んで表したり見たりする態度を育てるとともに、つくりだす喜びを味わうようにする。
- (2) 造形活動を楽しみ、豊かな発想をするなどして、体全体の感覚や技能などを働かせるようにする。
- (3) 身の回りの作品などから、面白さや楽しさを感じ取るようにする。

### 2 指導の要点

A 表 現	<p>(1) 材料を基に造形遊びをする活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に思い付いてつくること。</li> <li>イ 感覚や気持ちを生かしながら楽しくつくること。</li> <li>ウ 並べたり、つないだり、積んだりするなど体全体を働かせてつくること。</li> </ul> <p>(2) 感じたことや想像したことを絵や立体、工作に表す活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 感じたことや想像したことから、表したいことを見付けて表すこと。</li> <li>イ 好きな色を選んだり、いろいろな形をつくって楽しんだりしながら表すこと。</li> <li>ウ 身近な材料や扱いやすい用具を手を働かせて使うとともに、表し方を考えて表すこと。</li> </ul>
B 鑑 賞	<p>(1) 身の回りの作品などを鑑賞する活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 自分たちの作品や身近な材料などを楽しく見ること。</li> <li>イ 感じたことを話したり、友人の話を聞いたりするなどして、形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどに気付くこと。</li> </ul>
( 共 通 事 項 )	<p>(1) 「A表現」及び「B鑑賞」において共通に必要な活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 自分の感覚や活動を通して、形や色などをとらえること。</li> <li>イ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。</li> </ul>

### 3 内容の取り扱い

- (1) 個々の児童が特性を生かした活動ができるようにするため、学習活動や表現方法などに幅をもたせるようにする。
- (2) 「A表現」の感じたことや想像したことを絵や立体、工作に表す活動については、児童や学校の実態に応じて、児童が工夫して楽しめる程度の版に表す経験や焼成する経験ができるよう

にする。

(3) 材料や用具については、次のとおり取り扱うこととし、必要に応じて、当該学年より前の学年において初歩的な形で取り上げたり、その後の学年で繰り返し取り上げたりする。第1学年及び第2学年においては、土、粘土、木、紙、クレヨン、パス、はさみ、のり、簡単な小刀類など身近で扱いやすいものを用いることとし、児童がこれらに十分に慣れることができるようにする。

(4) 事故防止に留意する。

(5) 「B鑑賞」の指導に当たっては、児童や学校の実態に応じて、地域の美術館などを利用したり、連携を図ったりする。

#### 4 評価の観点の趣旨

観 点	観 点 の 趣 旨
造形への関心・意欲・態度	思いのままに表したり、作品などを見たりしながら、作りだす喜びを味わおうとする。
発想や構想の能力	感じたことや材料などを基に表したいことを思い付いたり、形や色、つくり方などを考えたりしている。
創造的な技能	体全体の感覚を働かせながら材料や用具を使い、工夫して表している。
鑑賞の能力	身の回りの作品などの形や色などから、面白さに気付いたり、楽しさを感じたりしている。